

社報 御霊本宮

第81号

発行者
御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日
令和3年
7月1日

気象神社

気象神社という神社があるのを御存じでしょうか。東京都杉並区高円寺に鎮座する氷川神社の境内にある神社です。

気象神社は、昭和十九年（一九四四）

四月、大日本帝国陸軍の陸軍気象部の構内に造営されました。軍にとって気象条件は戦略、作戦を講じるのに大事な要素であったため、科学的根拠に基づいた予報がされていましたが、予報的中を祈願するなど、気象観測員の心のよりどころとされていたそうです。

その後、戦後の神道指令で撤去されるはずの気象神社でしたが、調査漏れにより残存し、氷川神社に遷座されることになりました。

御祭神は八意思兼命です。八意思兼



命は、高天原の長である高皇産霊命の子です。「八意」は「様々な立場から考えるを」、「兼」は兼任を表わし「一人で二人以上のことができる」という意味の名前の通り、多くの知恵を一同に結集させることができる「知恵の神様」です。

神話によると、太陽神である天照大神が天の岩戸に隠れて世の中が暗闇になった時、岩戸を開けて天照大神を外界に戻す知恵を考え出したのが、八意思兼命です。再び世界に「太陽」を取り戻し、世の中を救うことに成功しました。このことから「気象の

神様」と祀られるようになったとも言われています。

また、八意思兼命はその名の通り

「晴」「曇」「雨」「雪」「雷」「風」「霜」「霧」という八つの気象条件を司ることができるとされています。

明治八年（一八七五）六月一日に東京赤坂葵町に日本初の気象台である東京気象台（現在の気象庁）が設置されました。東京で気象と地震観測が開

始されたことを記念して「気象記念日」が制定されました。気象神社では、毎年この「気象記念日」に合わせて例大祭（気象祭）が行われています。

気象神社は、下駄型の絵馬が有名です。「明日天気になあれ」と歌って下駄を足で投げ上げ、落ちた下駄が表

ら晴れ、裏なら雨という占いが、子どもの遊びも兼ねて行われていました。今はもう、そんな子どもの姿はほとんど見られません。

気象神社では、好天を願う沢山の絵馬が奉納されています。

宇智郡 狛犬めぐり

火打町 八王子神社

明治二十四年（一八九一）二月に建立された狛犬です。

狛犬は神

社を邪悪なものから守るため、その邪悪なものを恐ろしい顔で睨みつけます。

しかし、

ここの狛犬は、にこやかに笑って

いるように見えます。耳は平たく垂れているのも愛嬌でしょうか。吽形には、小さな小さな角がちょこんと付いています。こんなかわいい狛犬だと、邪悪なものも悪さをしないのでしょうね。



五條十八景を訪ねて

第五景 「高取孤城」

突兀たる飛楼 壯觀を伝ふ
 勢 霄寒を凌ぎ 斗牛寒し
 退之 償ひ得たるや藤王の願ひ
 試みに江山に向ひて 筆を揮ひ看る

天にもそびえる城の壮観さ。その偉大な姿は天をもしのぎ、星の寒々と輝く空高くそそり立っている。退之は藤王の願いに報いることができたかどうか。私は今、試しに城山の景に向かつて筆を揮ってその壮観さに見入っている。



高取城は南北朝時代の元弘二年（一三三二）に築城されました。標高五八

三mの高取山山上に築かれた山城で、最盛期には白漆喰塗りの天守や櫓が建ち並び、城下町より望む姿は「異高取雪かと思れば、雪ではござらぬ土佐（高取の旧名）の城」と歌われました。

城郭全域の総面積は約六万㎡、周囲は約三十kmに及び、国内では最大規模の山城で、備中松山城（岡山県）・岩村城（岐阜県）とともに日本三大山城の一つに数えられています。

現在は、石垣のみ残されており、天守など建物の様子を窺い知ることはできませんが、本丸跡の広さや石垣の高さなどから、とても大きな山城であったことが分かります。



七夕

七夕は、中国

から伝わった行事ですが、日本では旧暦七月七日に七夕という行事がありまして。棚機女が神に供える着物を織る日で、この日を七夕と言いました。



その後、中国から乞巧奠という七夕の原型の行事が伝わりました。牽牛・織女の二星が天の川を渡って一年に一度出逢うという伝説が伝わり、わが国の棚機女の信仰と結合しました。

乞巧奠は、機織りなどの技工、芸能の上達を願う祭りであったことから、短冊に願い事を書く風習が始まりました。笹に吊るすのは、笹は神が宿るものと考えられていたことによりま

八百方のお椀のかみ

思金神

素戔嗚尊が高天原で悪行を働きます。そのため天照大神は天の岩戸に隠れてしまいました。高天原はすっかり暗くなり、葦原中国（日本の古名）も全て暗闇となりました。邪神の騒ぐ声は、夏の蠅のように世界に満ち、災いが一斉に発生しました。

このような状態となったので、高御産巢日神の子である思金神が打開策を考えました。用意周到に準備し、天児屋や天手力男、天宇受売などの神々の協力を得て、天照大神を岩戸から出すことに成功します。

八意思金神とも表記されます。「八」を「多い」、「意」と「思」を「思慮」、「金」を「兼ね」と解し、「多くの思慮を兼ね備えている神」と考えられています。このあとの「国譲り」では、葦原中国に派遣する神の選定を行っています。

夏越大祓齋行

六月二十七日(日) 午後三時より、

夏越大祓を齋行しました。午前中に雨が降り、屋外での茅の輪神事の実施が心配されましたが、午後には雨が上がり空も明るくなって、無事に実施することができました。今年も雅霊会駿雅の皆さんの雅楽奉仕をいただき、より厳かに神事を齋行させていただきました。

参加者の皆さんには、「夏越大祓祈禱符」「茅の輪守り」のほかに、「夏越大祓特製の御朱印」と「黒米」の撒下品を授与しました。黒米は氏子さんから奉納いただいたものです。ビタミン・リン・カルシウムなどを含み、滋養強壮作用がもたらされるといわれており、この夏を健康に乗り切ってほしいとの願いから授与しました。茅の輪は七月十一日まで設置しておく予定です。お参りの際は茅の輪をくぐってから御参拝ください。

茅の輪守り

夏越大祓御朱印

社頭頒布しています



夏越大祓で

神前に供え、

祈禱した「茅

の輪守り」と



「夏越大祓御朱印」は、本社社頭にて頒布しています。茅の輪守りは直径約8cm、一体五〇〇円。御朱印はB5版(約18cm×13cm)で、本社社頭の狛犬が描かれています。一枚五〇〇円です。

どちらも頒布は七月末日までを予定していますが、限定数ですので無くなり次第頒布終了となります。

今後の御霊本宮行事予定



7月31日(土) ～ 8月8日(日)

七夕笹飾り設置

8月7日(土) 七夕祭・一願一燈

9月21日(火) 観月祭・一願一燈

10月9日(土) 重陽節句祭

23日(土) 秋季例祭・一願一燈

24日(日) 秋季例祭

11月23日(火) 新嘗祭

12月31日(金) 年越大祓・除夜祭

Twitter @goryohongu



Instagram @goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。

公式ホームページ

<http://goryojinja.or.jp>



七月十日は

五條文化

博物館へ

七月十日、夕刻六時半から五條文化博物館円形広場にて、「七夕の夕べ」が催されます。雅楽の演奏や、大人が聞いても楽しい絵本の読み聞かせなどがあります。また、参加者が願い事を書いたキャンドルを並べるイベントや博物館からのプレゼント(内容は当日のお楽しみ)もあります。

参加費は無料ですが、高校生以上は入館料が必要です。(大人三〇〇円、高校・大学生二〇〇円、中学生以下無料)入館は午後六時二〇分までです。なお、屋外でのイベントのため雨天中止となりますので、天候がややこしい場合は左記までお問合せください。電話(三〇) 四七六一 駐車場が狭いので送迎バスをご利用ください。JR五条駅北口、午後五時四〇分発。イベント終了後、駅までのバスも運行します。

日本書紀にみる

十一代垂仁天皇(八)

二十八年冬十月五日、天皇の母の弟の倭彦命ヤマトヒコノミコトが亡くなりました。十一月二日、倭彦命を身狭ミサ(橿原)の桃花鳥坂トウカトリノサカ(築坂)に葬りました。このとき、近習の者を集めて、全員を生きたまま

で、陵(墓)のまわりに埋めました。日が経っても死なず、昼夜泣き呻うめいていました。ついには死んで腐つていき、犬や鳥が集まり食べました。天皇は、この泣き呻く声を聞いて心を痛めました。

群卿ムラツミたちに「生きている時に愛し使われた人々を、亡者に殉死させるのは痛々しいことだ。古の風であるとしても、良くないことは従わなくてもよい。これから後は、合議して殉死を止めるように」と言いました。

三十年春一月六日、天皇は五十瓊敷入彦命イソノヒコノミコトと大足彦尊オホタラシヒコノミコトに「お前たち、それぞれに欲しい物を言ってみよ」と問い

ました。兄王は「弓矢が欲しいです」と言い、弟王は「天皇の位が欲しいです」と言いました。そこで天皇は「それぞれ望みのままにしよう」と言いました。弓矢を五十瓊敷命に賜わり、大足彦命には、「お前は必ず、我が位を継げ」と言いました。

三十二年秋七月六日、皇后である日葉酢媛命ヒハスヒメノミコトが亡くなりました。天皇は群卿に「殉死が良くないことは前に分つた。今度の葬はどうしようか」と言いました。

野見宿禰ノミノスクネが言いました。「君王の陵墓に、生きている人を埋め立てるのはよくないことです。どうして後の世に伝えられましょうか。どうか今、適当な方法を考えて奏上させて下さい」

使者を出して出雲国の土部ツチノ部を百人を呼んで、埴土ハニツチで人や馬やいろいろの物の形を造って天皇に献上し、「これから後、この土物を以て生きた人に替え、陵墓に立て後世の決まりとしまし

ました。天皇は大いに喜ばれ、野見宿禰に「お前の便法は誠に我が意を得たものだ」と言い、その土物を始めて日葉酢媛命の墓に立てました。よって、この土物を名づけて埴輪ハニワと呼びました。あるいは立物たちものともいいました。

「今から後、陵墓には必ずこの土物をたてて、人を損ってはならぬ」と命令しました。天皇は厚く野見宿禰の功を褒められて、鍛地かたし(陶器を成熟させる地)を賜りました。そして土師の職に任せられました。それで本姓を改めて土部臣ツチノ部ノミコトといます。これが土部連ツチノ部ノミヤらが天皇の喪葬を司る謂れです。つまり、野見宿禰は土部連の先祖です。



(次号につづく)

万葉の花たち

くは(クワ)

たらちねの母ははが園そのなる桑くはすらに願ねがへば衣きぬに着きすとふものを

作者未詳(巻七・一三五七)

母なりわいが生業なりわいに

している桑で

さえ、心から

願えば、衣に

なるというの

に。(どうし

て私の願いは

叶わないのでしよう。)



子どもの頃、近所の畑は桑の木がいっぱいでした。蚕を飼っている家の畑だったので、葉は蚕が、実は私達子どもが勝手に食べていました。今は桑の木を見ることがなくなり、クワは「カイコが食う葉」が転じたとも「蚕葉」がクワになったとも言われます。